

(22) 急性肺炎の重症度分類

厚生労働省の重症度判定基準と重症度スコアに基づいて“0”～“27”までの値を入力。

厚生労働省の重症度スコア	Stage
0	0 (軽症)
1	1 (中等症)
2～8	2 (重症Ⅰ)
9～14	3 (重症Ⅱ)
15～27	4 (最重症)

※ 厚生労働省急性肺炎の重症度判定基準と重症度スコア

	重症度判定基準	重症度スコア
予後因子①	ショック 呼吸困難 神経症状 重症感染症 出血傾向 Ht ≤ 30% BE ≤ -3 mEq/L BUN ≥ 40mg/dL (or Cr ≥ 2.0mg/dL)	各2点
予後因子②	Ca ≤ 7.5mg/dL FB S ≥ 200mg/dL PaO <sub>2</sub> ≤ 60mmHg LDH ≥ 700IU/L 総蛋白 ≤ 6.0g/dL プロトロンビン時間 ≥ 15秒 血小板 ≤ 10万/mm <sup>3</sup> CT Grade IV/V	各1点
予後因子③	SIRS 診断基準における陽性項目数 ≥ 3 年齢 ≥ 70歳	2点 1点

Q&A

Q：いつの時点のものを入力するのか。入院時点か。

A：親・子様式1それぞれの該当期間内における最も重症であると判断された時点の状態を入力する。

(23) 多発性骨髄腫の病期分類 (Durine & Salmonの分類法)

該当する分類の値“1”～“3”に続けて、該当する亜分類を“A”又は“B”により入力する。

例 分類がⅠ期で亜分類がAの場合 → 1A

値	分類	所見
1	Ⅰ期	次の項目をすべて満たす場合。 ① ヘモグロビン > 10g/dl ② 血清カルシウム値 正常 (≤ 12mg/dl) ③ 骨X線写真で正常像若しくは孤立性の骨形質細胞腫 ④ 低-M成分産生率 (IgG値 < 5g/dl, IgA値 < 3g/dl, 電気泳動上の尿中L鎖M成分 < 4g/24時間)
2	Ⅱ期	Ⅰ期並びにⅢ期の条件を満たさない場合。
3	Ⅲ期	次の項目のうち一つ以上を満たす場合。 ① ヘモグロビン < 8.5g/dl ② 血清カルシウム値 > 12mg/dl ③ 進行した骨融解病変を認める (広範囲にわたるか骨折を伴う) ④ 高-M成分産生率 (IgG > 7g/dl, IgA > 5g/dl, 電気泳動上の尿中L鎖M成分 > 12g/24時間)

○ 亜分類

A	腎機能比較的正常 (血清クレアチニン < 2.0mg/dl)
B	腎機能異常 (血清クレアチニン ≥ 2.0mg/dl)

Q&A

Q：いつの時点のものを入力するのか。

A：今回の治療方針を決定する際に使用した病期分類を入力のこと。